

目指す人間像について

【目指す人間像の設定に関するポイント】

教育は、一人ひとりが幸福な人生とより良い社会の創り手となる上での礎
これまでの「人が^{たから}財産」は、普遍的な考え方として継承
教育を取り巻く環境を踏まえ、より具体的な人間像を設定
人間像は目指す姿とし、実現に向けて必要な成長のプロセスについては
【説明文】の中に記載

目指す人間像

共に認め合い ^{いま} 現在と未来を創る人

【説明文】

共に認め合い

今後どのような時代になっても、多様な人々¹が共生し、一人ひとりの個性が輝くためには、まず一人ひとりが自分自身の良いところや可能性に気付いて認めることが必要です。自分を認めることを通じて、多様な人々の存在に気付く、皆が共に認め合い、つながり、支え合うことができる関係を築くことが重要です。

^{いま} 現在と未来を創る

予測困難な時代であっても豊かな人生を送るためには、自ら学びに向かい、広く想像し、深く思考して主体的に行動するとともに、多様な人々が積極的にかかわり、高め合いながら多様なアイデアを融合し、新たな価値²を生み出すことが必要です。こうしたことを通じ、誰もが心豊かに生き生きと活躍し続けられる現在を創るとともに、人間ならではの感性を働かせ、先端技術を駆使しながら持続可能な未来を創ることが重要です。

新たな価値を生み出す手段を
限定しない方がよい。

¹「多様な人々」とは、性別、年齢、国籍や民族、疾病や障害の有無、文化、生活習慣の違い等のある人々のことをいいます。

²「新たな価値」とは、文化芸術や技術革新のようなものに限らず、地域課題や身近な生活上の課題を自分なりに解決するなど自他の人生や生活を豊かなものにしていく様々な工夫などを含みます。